**乳幼児用**

**早期発見のための観察ポイント**

この観察ポイントのどれかに該当するからといって必ず虐待が行われているというわけではありません。小さなサインを見逃さないために「児童虐待かもしれない」という視点を常に持ち、子どもや保護者にこれまで以上に十分注意して関わる必要があります。支援が必要な子どもや保護者を早期に発見するという考え方で活用してください。複数に該当し、繰り返しているようなら虐待を疑い、子ども子育て応援センターや佐世保こども・女性・障害者支援センター（児童相談所）へ連絡します。

**子どもの様子**

**≪身体面≫**

□身長・体重の増加が悪い、あるいは低下、栄養失調がある

□不衛生で、衣類の汚れ、異臭がある

□おしりがただれていたり、おむつがあまり替えられていない

□不自然な傷、あざ（内出血）、骨折、火傷がある

□季節にそぐわない服装をしている

**≪行動・心理面≫**

□表情が乏しく、無表情である、おどおどしている

□食欲不振、または、食べ物に非常に執着する

□友達と遊べず孤立している

□大人に対して執拗に甘えたり、または警戒心が強い

□怯えた泣き方、かんしゃくが激しい

□ささいなことでもかっとなり乱暴で攻撃的である

□年齢のわりに性的関心が高い

□傷や家族のことに関して不自然な答えが多い

□自分の身体を傷つける

□小動物に残虐な行為をする

**≪集団生活の場（幼稚園、保育所、認定こども園等）≫**

□給食（おやつ）をむさぼるように食べたり、何度もお代わりする

□衣類を脱ぐことや身体接触をとても嫌がったり、異常な不安を見せたりする

□職員を独占してまとわりついて離れない

□頻繁に準備品や弁当を忘れる

□友達と関係を取るのが苦手で、嫌われるような行動をとったり、仲よく遊べない

□給食時間に登園する

□遠足、運動会などの行事の欠席が目立つ

□理由がはっきりしない遅刻、欠席が多い

□親が迎えに来ても家に帰りたがらない　親の前では怯えた態度になる

□多動で落ち着きがなく、攻撃的な行動をする

**保護者の様子**

**≪保護者の子どもへの関わり方≫**

□子どもとの関わりが乏しかったり冷たい態度をとったりする

□イライラしていて子どもへの怒り方が異常、感情が不安定である

□自分の思い通りにならないとすぐに叩いたり、蹴ったりする

□子どもに愛情がわかない等、子どもへの拒否的な発言、感情

□子どもに能力以上のことを無理矢理押しつけようとする

□きょうだいと著しく差別したり、他の子どもと比較ばかりしている

□予防接種や健診を受けさせない

□けがや病気をしても受診させない、病院に連れて行くのは遅い

□家の中が乱雑、不衛生である

□子どもために適切な食べ物や必要なものを準備しない

□親が仕事や遊びに行き、乳幼児を家や車に放置する

**≪保護者の状態≫**

□夫婦げんかが激しい等、夫婦関係がうまくいっておらず、生活上のストレスになっている

□生活困窮、夜間就労等で生活に余裕がない

□地域や親族との交流がなく孤立している

□精神及び身体の病気、知的な障害のため子育てが負担または適切な養育ができない

□アルコール、薬物依存などがある

□保護者自身の生い立ちに虐待の既往歴がある

□遅刻や欠席の際に連絡をしない

□保育士等との連絡に応じない、面談や家庭訪問を拒む

□保育士等に対し、過度の不満を述べる

**以下については緊急性が高く、通告が必要です**

□生命の危機があるようなケガ、頭や顔のケガ、腹のケガ、窒息の危険がある

　　骨折、打撲傷、裂傷、出血等

□脱水症状や栄養不足による衰弱　低身長、低体重（－２SD）のいずれかの状態がある

□子ども、または保護者が保護を求めている

家に帰りたがらない差し迫った状況がある

□性的な被害（疑い含む）がある

　　性交渉、性器や性交渉を見せる、体を触る、触らせる

□生命の危機があるような加害行為がみられる

　　蹴る、殴る、乳幼児揺さぶり症候群（Shaken　Baby　Syndrome：SDS）投げる、逆さに吊る、踏みつける、

首を絞める、溺れさせる

□治療が必要だが受診をしていない

　　乳幼児の感染症や下痢、衰弱、重度の慢性疾患、外傷等

□親子心中の計画

　　心中を考えている、殺してしまいそうなどの訴え